

こたえ アリババと四十人のとうぞく

はってん
発展 ③

アリババと四十人のとうぞく

(アラビアに伝わる話)

昔、ペルシャの町に、アリババという、まずしい木こりがいました。アリババは、毎日森へ行って木を切り、それを売ってくらしていました。

ある日、森で木を切っていると、四十人のとうぞくが、馬にのってやってきました。アリババが木の上にかくれて見ていると、とうぞくのかしららが、大きな岩の前で「開け、ごま。」とさけびました。すると、岩がごろごろと動いて、ほらあなの入り口が開きました。

とうぞくたちが立ち去った後、アリババも同じように「開け、ごま。」と言ってみました。ほらあなの中には、金や宝石が山のようにつまれていました。アリババは、少しだけ金貨を持ち帰りました。

このことを知った兄のカシムは、自分もほらあなに出かけました。ところが、カシムは宝に夢中になって、出るとき言葉を書き忘れてしまいました。そこへとうぞくたちがもどってきて、カシムはつかまってしまったのです。

1 とうぞくは、何人いましたか。

四十人

2 岩を開けるときの言葉を、本文から書きぬきましょう。

「開け、ごま。」

3 カシムが、つかまってしまったのは、どうしてですか。

宝に夢中になって、出るとき言葉をわすれてしまったから。

4 アリババとカシムのちがいに合うものに、○をつけましょう。

ア アリババはよくばらず、カシムはよくばった。

イ アリババは力が強く、カシムは弱かった。

ウ 二人とも、たくさん持ち帰った。

5 アリババが、少しだけ金貨を持ち帰ったのは、どうしてだと思いますか。

とうぞくに気づかれないようにするため。